

平成 24 年 3 月 14 日

各 位

会 社 名 株 式 会 社 エ ム ア ッ プ
代 表 者 名 代 表 取 締 役 美 藤 宏 一 郎
(コード番号：3661)

問 い 合 わ せ 先 取 締 役 総 務 経 理 部 長 藤 池 季 樹
TEL. 03-5467-7125

東京証券取引所マザーズへの上場に伴う当社決算情報等のお知らせ

当社は、本日、平成24年3月14日に東京証券取引所マザーズに上場いたしました。今後とも、なお一層のご指導ご鞭撻を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。

なお、当社の当期の業績予想は以下のとおりであり、また、最近の決算情報等につきましては別添のとおりであります。

【個 別】

(単位：百万円、%)

項目	決算期	平成 24 年 3 月 期 (予想)		平成 24 年 3 月 期 第 3 四 半 期 累 計 期 間 (実績)		平成 23 年 3 月 期 (実績)		
		構成比	前年比	構成比	構成比			
売 上 高		3,474	100.0	126.4	2,809	100.0	2,748	100.0
営 業 利 益		486	14.6	132.8	411	14.6	366	13.3
経 常 利 益		456	14.5	13.1	405	14.5	367	13.4
当 期 (四 半 期) 純 利 益		270	8.3	133.8	232	8.3	202	7.4
1 株 当 たり 当 期 (四 半 期) 純 利 益		192 円 11 銭		163 円 56 銭		130 円 48 銭		
1 株 当 たり 配 当 金		50 円 00 銭		—		0 円 00 銭		

(注) 1. 当社は子会社がありませんので、連結財務諸表は作成しておりません。

2. 平成 23 年 3 月 期 (実績)、平成 24 年 3 月 期 第 3 四 半 期 累 計 期 間 (実績) 及び平成 24 年 3 月 期 (予想) の 1 株 当 たり 当 期 (四 半 期) 純 利 益 は、期 中 平 均 株 式 数 に よ り 算 出 し て お り ま す。

以上

平成24年3月期 第3四半期決算短信 [日本基準] (非連結)

平成 24年 3月 14日

上場会社名 株式会社エムアップ

上場取引所

コード番号 3661

URL <http://www.m-up.com/>

代表者 (役職名) 代表取締役

(氏名) 美藤 宏一郎

問合せ先責任者 (役職名) 取締役総務経理部長

(氏名) 藤池 季樹

TEL (03) 5467-7125

四半期報告書提出予定日 —

配当支払開始予定日 —

四半期決算補足説明資料の有無 : 無

四半期決算説明会開催の有無 : 無

(百万円未満切捨て)

1. 平成24年3月期第3四半期の業績 (平成23年4月1日～平成23年12月31日)

(1) 経営成績 (累計)

(%表示は対前年同四半期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		四半期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%
24年3月期第3四半期	2,809	—	411	—	405	—	232	—
23年3月期第3四半期	—	—	—	—	—	—	—	—

	1株当たり四半期純利益		潜在株式調整後1株当たり四半期純利益	
	円	銭	円	銭
24年3月期第3四半期	163	56	—	—
23年3月期第3四半期	—	—	—	—

(2) 財政状態

	総資産		純資産		自己資本比率	
	百万円		百万円		%	
24年3月期第3四半期	2,335		849		36.3	
23年3月期	1,506		819		54.4	

(参考) 自己資本 24年3月期 第3四半期 849百万円 23年3月期 819百万円

2. 配当の状況

	年間配当金									
	第1四半期末		第2四半期末		第3四半期末		期末		合計	
	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭	円	銭
23年3月期	—		0	00	—		0	00	0	00
24年3月期	—		0	00	—					
24年3月期(予想)							50	00	50	00

(注) 配当予想の当四半期における修正の有無 : 無

3. 平成24年3月期の業績予想 (平成23年4月1日～平成24年3月31日)

(%表示は、通期は対前期増減率)

	売上高		営業利益		経常利益		当期純利益		1株当たり 当期純利益	
	百万円	%	百万円	%	百万円	%	百万円	%	円	銭
通期	3,474	26.4	486	32.8	456	24.3	270	33.8	192	11

(注) 業績予想数値の当四半期における修正の有無 : 無

4. その他

(1)	四半期財務諸表の作成に特有の会計処理の適用	:	無		
(2)	会計方針の変更・会計上の見積もりの変更・修正再表示	:			
①	会計基準等の改正に伴う会計方針の変更	:	無		
②	①以外の会計方針の変更	:	無		
③	会計上の見積もりの変更	:	無		
④	修正再表示	:	無		
(3)	発行済株式数（普通株式）				
①	期末発行済株式数（自己株式を含む）	24年3月期第3四半期	1,583,000株	23年3月期	1,557,000株
②	期末自己株式数	24年3月期第3四半期	240,100株	23年3月期	0株
③	期中平均株式数（四半期累計期間）	24年3月期第3四半期	1,418,568株	23年3月期第3四半期	1,548,491株

※ 四半期レビュー手続の実施状況に関する表示

この四半期決算短信は、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続の対象外であり、この四半期決算短信の開示時点において、金融商品取引法に基づく四半期報告書のレビュー手続を実施していません。

※ 業績予想の適切な利用に関する説明、その他特記事項

- 本資料に記載されている業績見通し等の将来に関する記述は、当社が現在入手している情報及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により大きく異なる可能性があります。

業績予想の前提となる条件等については、四半期決算短信（添付資料）4ページ「業績予想に関する定性的情報」をご覧ください。

- 平成22年10月13日付で普通株式1株を100株にする株式分割を行っております。そのため、平成23年3月期第3四半期の1株当たり四半期純利益、潜在株式調整後1株当たり四半期純利益及び期中平均株式数については、当該株式分割が前期首に行われたと仮定した数値を表示しております。

○添付資料の目次

1. 当四半期決算に関する定性的情報	2
(1) 経営成績に関する定性的情報	2
(2) 財政状態に関する定性的情報	4
(3) 業績予想に関する定性的情報	4
2. 四半期財務諸表	5
(1) 四半期貸借対照表	5
(2) 四半期損益計算書	7
(3) 継続企業の前提に関する注記	8
(4) セグメント情報等	8
(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記	8

1. 当四半期決算に関する定性的情報

(1) 経営成績に関する定性的情報

当第3四半期累計期間における我が国の経済は、生産を中心に緩やかな持ち直しが期待されているものの、企業収益に減少が見られ、雇用情勢にも悪化懸念が残るなど、東日本大震災の影響により依然として厳しい状況にあります。加えて、電力供給の制約や海外景気の下振れ懸念、為替レートの変動など、景気を下押しするリスクが存在し、先行きはなお不透明な状況にあります。

一方、当社を取り巻くインターネット関連市場につきましては、従来からの携帯電話端末やPC端末を通じたインターネット利用に加え、スマートフォンやタブレット端末の利用拡大、高速モバイル通信の普及等に伴い、モバイル環境におけるインターネット利用の裾野が広がり、今後も安定的に成長、拡大を続けることが期待されております。

携帯電話加入台数は、平成23年12月末現在で1億2,175万台（前年同月比4.0%増）、そのうち第3世代携帯電話端末が1億2,115万台（同5.1%増）となり、ほぼすべての端末で高速データ通信が可能になる一方で、スマートフォンの普及により市場は再活性化しております（出所：社団法人電気通信事業者協会）。平成22年におけるモバイルビジネスの市場規模を見ると、モバイルコンテンツが6,465億円（前年比17.0%増）、モバイルコマースが1兆85億円（前年比4.2%増）となり、携帯電話端末の高い普及率や高機能化を背景として、堅調に拡大を続けております（出所：総務省「モバイルコンテンツの産業構造実態に関する調査結果」）。

インターネットの利用動向につきましては、平成22年におけるインターネット利用者数は9,462万人（前年比0.6%増）、人口普及率は78.2%と、緩やかながらも継続的に増加を続けております。光回線の利用率が52.2%（前年比11.1ポイント増）と急拡大するなど、インターネット利用者の77.9%（前年比0.9ポイント増）がブロードバンド回線を利用し、高速データ通信の普及も着実に進展しております。ブロードバンド回線は、従来からのPC端末を通じたインターネット接続だけにとどまらず、様々な機器の通信インフラとして利用される機会も増加しており、今後も堅調な成長が見込まれております。（出所：総務省「平成22年通信利用動向調査」）

このような外部環境の中、当社はいち早いコンテンツの発掘と獲得を進め、他社にはないコンテンツを取り揃えることにより、サイト内容の充実と他社との差別化に取り組んでまいりました。また、複数のコンテンツ分野における複合的なサイト運営により、幅広いユーザー層の確保と有料会員数の拡大にも注力してまいりました。

加えて、携帯及びPCコンテンツ配信事業で取り扱うアーティストやタレントのグッズやCD及びDVD等のパッケージ商品をeコマース事業で販売するなど、ファンクラブサイトを軸に事業間でのシナジー効果を発揮させ、ファンとアーティスト等をより有機的に繋ぎ合わせることで、収益力の強化と効率的な事業運営に努めてまいりました。

急速に普及が進むスマートフォンへ向けた取り組みといたしましては、キャリアによるスマートフォン向け課金サービスの開始に合わせ、従来からの携帯電話端末向けに運営してきた公式サイト、サービスのスマートフォン対応を順次進めてまいりました。

以上の結果、当第3四半期累計期間における売上高は2,809百万円、営業利益は411百万円、経常利益は405百万円、四半期純利益は232百万円となりました。

セグメントごとの概要は、以下のとおりであります。

①携帯コンテンツ配信事業

音楽コンテンツ配信サイトにつきましては、引き続き楽曲等コンテンツの充実を図ると同時に、潜在的な利用者の掘り起こしと需要喚起へむけた取り組みとして、初月無料での楽曲提供や利用者への付与ポイントの増加キャンペーン、並びに当社先行によるコンテンツ配信などを実施してまいりました。

エンタテインメントコンテンツ配信サイトにつきましては、多くの利用者の目に触れることのできるキャリア公式メニューにおいて高い掲載順位を維持することにより、新規有料会員の獲得を推進してまいりました。また、年末年始などコンテンツの利用増加が見込まれるタイミングに合わせ

た広告宣伝活動により、サイト及びコンテンツの認知度の向上と利用促進を図ってまいりました。

モバイルファンクラブサイトにつきましては、新規アーティスト・タレントの獲得を進め、新たに7アーティスト等のファンクラブサイトをキャリア公式サイトとして開設いたしました。既存サイトにおきましては、チケットの優先予約やプレゼント企画といった会員のサイト継続利用期間の長期化のための施策を講じ、より強固な顧客基盤の構築に努めてまいりました。

以上の結果、当第3四半期累計期間における携帯コンテンツ配信事業の売上高は1,679百万円、セグメント利益は499百万円となりました。

②PCコンテンツ配信事業

当第3四半期累計期間におきましては、アーティスト及びタレント等のファンクラブサイトについて、パッケージ商品やコンサートチケットの先行販売などを実施し、会員の維持、拡大を推進してまいりました。また、パソコン向けの音楽配信サイトに対しても当社が管理する楽曲の配信を行ってまいりました。

以上の結果、当第3四半期累計期間におけるPCコンテンツ配信事業の売上高は194百万円、セグメント利益は27百万円となりました。

③eコマース事業

当第3四半期累計期間におきましては、携帯及びPCコンテンツ配信事業等において当社がファンクラブサイトを運営するアーティスト、タレントを中心に、グッズやCD及びDVD等のパッケージ商品の販売に注力してまいりました。また、ファンクラブサイトを運営するアーティスト以外の商品販売も行うなど取り扱うアーティスト等を拡大し、それに伴い商品の取扱高も増加させてまいりました。

また、アパレル商品のeコマースにつきましては、アパレルブランドとアーティストとのコラボレーション商品を企画、販売することにより、取扱商品の充実と新たな購買層の開拓に努めてまいりました。加えてセール販売の実施により、販売機会の確保と在庫商品の圧縮も進めてまいりました。

以上の結果、当第3四半期累計期間におけるeコマース事業の売上高は935百万円、セグメント利益は80百万円となりました。

(2) 財政状態に関する定性的情報

<財政状態>

(資産の部)

流動資産は2,179百万円（前事業年度末比61.3%増）となりました。これは、売上増加による売掛金の増加と、商品の増加が主な要因であります。

固定資産は155百万円（前事業年度末比0.7%増）となりました。これは投資有価証券10百万円を取得したことが主な要因であります。

この結果、総資産は2,335百万円（前事業年度末比55.0%増）となりました。

(負債の部)

流動負債は1,474百万円（前事業年度末比118.2%増）となりました。これは、仕入増加による買掛金768百万円の増加が主な要因であります。

固定負債は12百万円（前事業年度末比7.6%増）となりました。

(純資産の部)

純資産の合計は849百万円（前事業年度末比3.6%増）となりました。これは、四半期純利益が当初計画通り推移したことが主な要因であります。

(3) 業績予想に関する定性的情報

今後における我が国の経済は、緩やかな回復が期待されるものの、雇用情勢の悪化や海外景気の下振れが懸念され、加えて電力供給の制約などにより、先行きはなお不透明な状況にあります。

一方で、当社の属するインターネット関連市場につきましては、スマートフォンが急速に普及し市場が再活性化しております。また、従来からの携帯電話端末向けコンテンツ配信もスマートフォンへの移行が本格化するなど、転換点を向かえております。

こうした事業環境の中、当社は技術動向の影響を受けにくいファンクラブサイトを中心とした新規公式サイトの開設とそれに伴う新規有料会員の獲得を推進しております。また、ファンクラブサイトを運営するアーティストのCD/DVD等の取り扱いを本格的に開始し、販売は順調に推移しております。費用面では、販売の拡大に比例し増加するロイヤリティ等や、採用の強化に伴う人材関連費用の増加を見込んでおります。

この結果、平成24年3月期の業績予想として、売上高3,474百万円（前年同期比26.4%増）、営業利益486百万円（前年同期比32.8%増）、経常利益456百万円（前年同期比24.3%増）、当期純利益270百万円（前年同期比33.8%増）を予想しております。

なお、業績予想につきましては、当社が現在入手している情報、及び合理的であると判断する一定の前提に基づいており、実際の業績等は様々な要因により異なる可能性があります。

2. 四半期財務諸表

(1) 四半期貸借対照表

(単位：千円)

	前事業年度末 (平成23年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成23年12月31日)
資産の部		
流動資産		
現金及び預金	595,852	813,363
売掛金	650,442	1,154,922
商品	44,556	137,534
繰延税金資産	48,364	40,178
その他	15,546	37,736
貸倒引当金	△2,979	△3,899
流動資産合計	1,351,783	2,179,837
固定資産		
有形固定資産	21,637	18,393
無形固定資産	55,418	48,536
投資その他の資産		
長期貸付金	50,000	50,000
その他	77,709	88,845
貸倒引当金	△50,000	△50,000
投資その他の資産合計	77,709	88,845
固定資産合計	154,765	155,776
資産合計	1,506,549	2,335,613

(単位：千円)

	前事業年度 (平成23年3月31日)	当第3四半期会計期間 (平成23年12月31日)
負債の部		
流動負債		
買掛金	443,736	1,212,189
未払法人税等	95,745	82,006
賞与引当金	21,049	11,389
役員賞与引当金	20,000	15,000
その他	95,197	153,770
流動負債合計	675,729	1,474,356
固定負債		
資産除去債務	11,366	11,485
その他	—	747
固定負債合計	11,366	12,233
負債合計	687,095	1,486,589
純資産の部		
株主資本		
資本金	148,910	154,890
資本剰余金	138,910	147,640
利益剰余金	531,633	763,659
自己株式	—	△216,090
株主資本合計	819,453	850,099
評価・換算差額等		
その他有価証券評価差額金	—	△1,074
評価・換算差額等合計	—	△1,074
純資産合計	819,453	849,024
負債純資産合計	1,506,549	2,335,613

(2) 四半期損益計算書

【第3四半期累計期間】

(単位：千円)

	当第3四半期累計期間 (自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日)
売上高	2,809,367
売上原価	1,876,683
売上総利益	932,684
販売費及び一般管理費	521,644
営業利益	411,039
営業外収益	
受取利息	1,205
その他	129
営業外収益合計	1,335
営業外費用	
為替差損	3,000
株式公開費用	3,336
その他	74
営業外費用合計	6,410
経常利益	405,964
税引前四半期純利益	405,964
法人税、住民税及び事業税	164,855
法人税等調整額	9,082
法人税等合計	173,938
四半期純利益	232,025

(3) 継続企業の前提に関する注記

該当事項はありません。

(4) セグメント情報等

【セグメント情報】

当第3四半期累計期間（自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日）

1. 報告セグメントごとの売上高及び利益の金額に関する情報

(単位：千円)

	報告セグメント			合計	調整額 (注) 1	財務諸表 計上額 (注) 2
	携帯コンテンツ 配信事業	PCコンテンツ 配信事業	eコマース 事業			
売上高						
外部顧客への売上高	1,679,436	194,535	935,395	2,809,367	—	2,809,367
セグメント間の内部売上高 又は振替高	—	—	—	—	—	—
計	1,679,436	194,535	935,395	2,809,367	—	2,809,367
セグメント利益	499,712	27,939	80,442	608,094	△197,055	411,039

(注) 1. セグメント利益の調整額△197,055千円は全社費用であり、主に報告セグメントに帰属しない一般管理費であります。

2. セグメント利益は、四半期損益計算書の営業利益と調整を行っております。

2. 報告セグメントごとの固定資産の減損損失又はのれん等に関する情報

該当事項はありません。

(5) 株主資本の金額に著しい変動があった場合の注記

当第3四半期累計期間（自 平成23年4月1日 至 平成23年12月31日）

当社は、第2四半期会計期間において、取締役会決議に基づき、自己株式を275,000株、総額247,500千円取得いたしました。

また、当第3四半期会計期間において、取締役会決議に基づき、自己株式を34,900株、総額31,410千円処分いたしました。この結果、当第3四半期会計期間において資本剰余金が2,750千円増加しております。なお、当第3四半期会計期間末における自己株式は、240,100株、216,090千円となっております。